

## 令和元年度学校関係者評価結果のまとめ

愛知県立豊川特別支援学校

評価委員の方に3つの評価項目について、4段階（A：優れた取組である B：取組状況は良好である C：取組状況は物足りない D：取組状況が不十分である）で回答をいただきました。また、具体的に寄せられました御意見を、○よい評価 □感想 ★要望・課題にまとめました。

### 1 評価項目：安全・安心な学校生活の充実、学ぶ意欲を大切にした授業の充実、教育支援力の向上

重点目標	具体的方策	評価（自己評価）	学校関係者評価(人)			
			A	B	C	D
いじめのない学校を目指し、未然防止、早期発見に努める。 (指導部)	いじめの未然防止に向けて教育相談通信「虹のつばさ」の活用、早期発見に向けて「こころとからだの健康アンケート」を実施する。	「虹のつばさ」や「こころとからだの健康アンケート」等を活用して約6割以上の教員がいじめ防止に対する指導ができた。2回アンケートを実施し、気になる記述回答については学年で共通理解を図り、保護者に対しても結果報告することができた。今後も、言葉や行動など幅広い点からいじめを捉えて組織で対応していきたい。	5	4	0	0
学校生活において、児童生徒、教職員の安全・安心についての意識を高める。 (指導部)	一学期を目安に、防災ヘルメット・頭巾の購入を促す。防災訓練実施前に激甚災害時マニュアルを確認するよう周知する。	避難訓練では頭部の安全を確保することの重要性について周知した。結果、児童生徒の防災ヘルメット及び頭巾の所有率は小学部 97%、中学部 95%、高等部 80%になった。初期行動で机の下にもぐり頭部を守ることができたが、移動時には、頭部を守ることができないなどの課題が見られた。今後もヘルメット等の所有率を上げるとともに安全行動について啓発したい。				
読書活動の楽しさを伝えるための環境を整える。 (図書部)	公共図書館の利用の啓発と、図書室利用年間指導計画の作成を行なう。	豊川市立中央図書館の利用の普及を進めるため職員室内に中央図書館コーナーを設置した。同図書館の掲示コーナーの利用については、計画に基づき実施し、地域や保護者の方々に本校の活動の一端を紹介することができた。「図書室利用や読書取組モデル案」については本年度の実施状況から具体的な活動を加えることができた。来年度については、読書活動をさらに活発にするため、電子書籍を導入し普及できるようにしていきたい。				
自立活動ハンドブックを活用した事例紹介を通して、指導の充実を図る。 (自立活動部)	事例を踏まえたハンドブックの活用方法を校務部会で検討し、自立活動だよりや現職研修などで具体的に示す。	事例検証生徒に関して話し合った内容を指導内容作成シートにまとめた。職員向け自立活動だよりでそのシートと合わせて、ハンドブックの活用方法、指導内容作成シートを作成する際のポイント、具体的な指導内容などを紹介することができた。今後も、ハンドブックの活用と時間における指導の充実を目指したい。				

- 小学部、中学部、高等部とそれぞれの課題に適切に取り組んでいただいています。今後とも子どもたちのためにより良い支援をしていただければと思います。
- すべての目標について良好に進められていると思います。いじめで不登校にならないように今まで以上に気を配っていただけるとありがたいです。
- 図書については、本にふれあう機会を設けてもらえてよい。これからも進めていってほしいです。
- 授業参観や評価の報告から、先生方が生徒第一の姿勢で教育活動をされていることが端々から伝わってきました。地域に受け入れられるようなさまざまな取組をされていることもぜひ継続していただけたらと思います。卒業後の自立に向け、生活力を高められるよう、今後とも丁寧な教育活動をよろしく願います。

- 図書館への広報活動はとてもよい。一般の人に知ってもらえる機会になる。運動系の活動は、知ってもらえる機会はあるが文科系は少ないので。
- 指導部の報告は、レベルアップしていると感じた。このまま続けてほしい。
- ★ 防災については、PTAと連携して講習会等を行えるとよい。
- ★ 基本的な取組としては十分な内容であり定着に向けて動き出していると感じます。次は本校の状況に合わせたアレンジがなされていけば素晴らしいと思われます。
- ★ 軽度の生徒は就職して、性の問題と携帯電話の問題でつまづくことが多い。女の子は、男の人にやさしくされるとついて行ってしまう。男の子は、きれいなお姉さんにお金を巻き上げられてしまう。携帯電話では、変なサイトにアクセスしてしまう。トラブルになる前に学校のカリキュラムの中で知識を身に付けてほしい。

#### 【授業参観や取組報告から】

- 小学部の交流は、平尾小学校の児童と同じ活動をしていたことに驚いた。両校のためにこれからも続けてほしい。
- 小学部の交流はとてもよい。一般の児童とかかわることに慣れていくことは必要だと思う。先生にとってもよい機会である。同じ年代の子はどんな実態であるか分かるのでは。
- 小学部の自立活動を参観して、子供に合わせて体のコントロールが必要であることが分かった。
- 校外作業に来ている生徒は、目標・反省がしっかり言える。回数を重ねるごとにしっかりと作業ができるようになってきている。来年度も引き続き行ってもらいたい。清掃作業ばかりで、利用者との交流は難しいが考えていきたい。
- 市民館の清掃や市民館祭りへの参加、穂の原祭りの町民への呼びかけ」など、地域とのつながりが深まってきている。平尾地域の中の豊川特別支援学校であると町民も思っている。
- 取組の報告から、地域との交流が無理なく図られていることが分かりました。
- 目標に向けて努力されていると思います。授業では、視覚支援、言葉かけなど分かりやすくてよいと思いました。個人を尊重した授業を行っていると思いました。
- 中学部の作業は、5年前に息子がやっていた。内容が分業され話し合いで決めているのでやる気が出てよい。一人一人丁寧に指導して下さりありがとうございます。
- 高等部は、お題にそった雑談ができるのはすばらしい。隣の学級で、入り口に教師が立っていて、「すみません、とおしてください」と言えることはすごい。
- ★ 高等部の授業参観では、自分で考える場面や家庭とのつながりがありとてもよいと感じた。教材のカードがもう少し大きいほうがよいと感じた。今の世の中、多様性を認められる社会であり、それを軸にした授業をしていると感じた。
- ★ 高等部の消費者教育の授業は、本物の広告を使用したほうがよいのでは。
- ★ センターの機能の役割として、特別支援教育のすそ野が広がっていることはよいが、まだ高等学校に広がっていない。高等学校の支援も考えていく必要がある。
- ★ 新入生（小1）の人数は今後も拡大傾向と思われます。より適正な入学先を選択できるように市も含めた意識共有や保護者への広報も必要な時代かもしれません。